

## 江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0218 NO98

校長 伊波喜一

悔しさの 炎を胸に 沈めつつ 耐え抜く4年 花開くかな

平昌五輪スピードスケート女子500mで、オリンピック・レコードで優勝した小平奈緒。2位のイ・サンファと、僅か0.39秒差の36.94秒での優勝だった。前回ソチ五輪からの4年間1461日の道のりは、彼女を支える人達と協働の道りであったように感ずる。遠く長いその道りが、小平を人間として一回りも二回りも大きくした。「金メダルをもらうのは名誉なことだが、(これから)どういう人生を生きていくかが大事になると思う」。「相沢病院との出会いは必然であり偶然。本当に苦しい時も、成績よりも私の夢を応援してくれた。患者さんや職員の方々とで、喜びを分かち合えればと思っている」。「日本人はスポーツの専門家がたくさんいたり、独特の知恵で高めようとしているところに、日本らしさがあると思っている。その勤勉さにほこりを持っている」。その語り口から、未来の指導者としての思慮深さや自制心・探究心を感じた。滑り終えたイ・サンファに韓国語でかけた「チャレツソ(よくやったね)」は、共戦してきた者のみを知る心境だったのではないだろうか。